

◆サンクンガーデンの環境条件について

新駅ビル等による日影の検証

- ・ 他都市の事例
- ・ 専門家からの意見

平成22年7月14日
姫路駅周辺整備室

サンクンガーデンの南側に高層建物が接する事例

■泉ガーデンタワー（東京都港区）



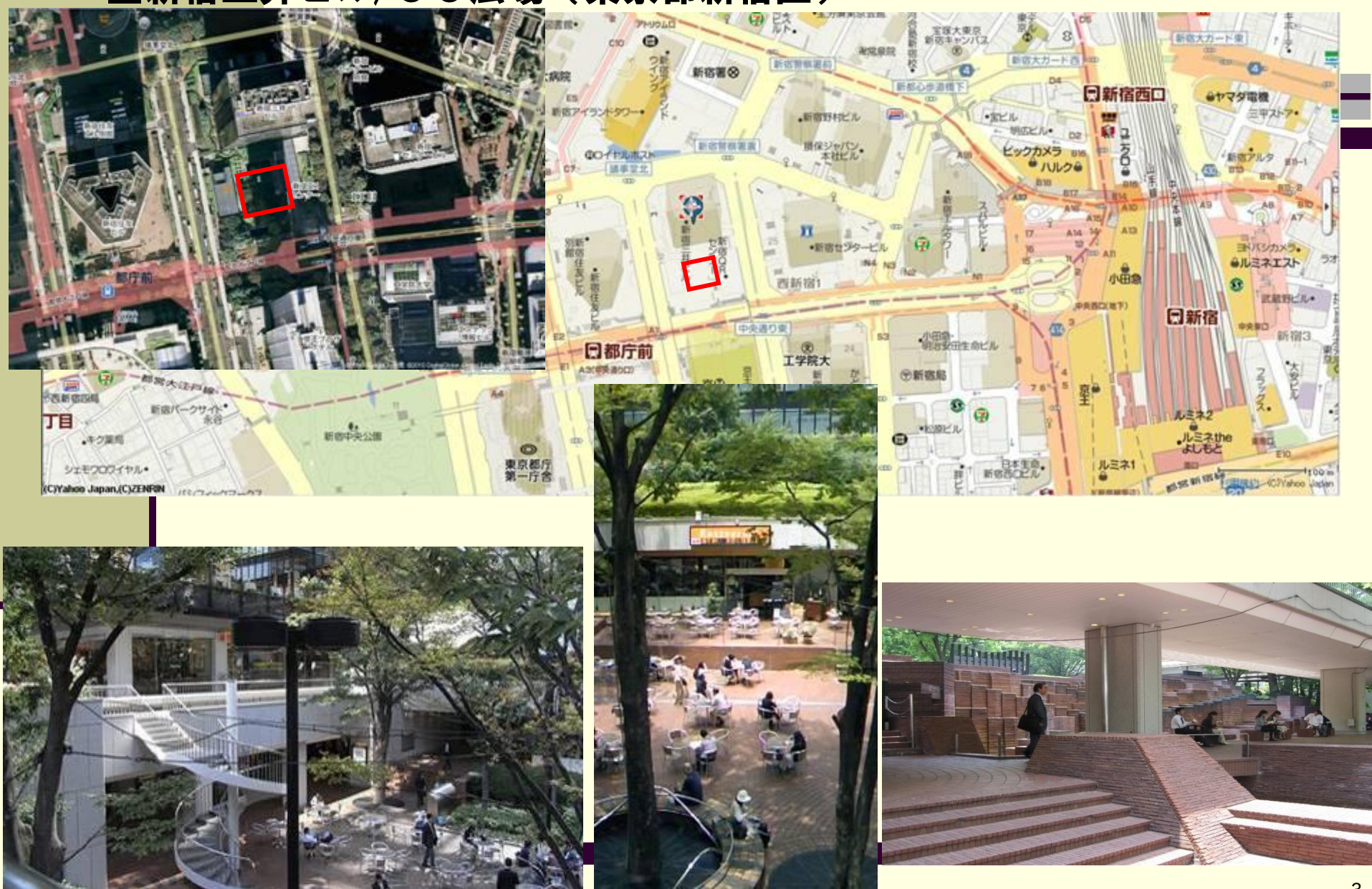
南側建物

- ・泉ガーデンタワー
- ・地上45階建 (216m)

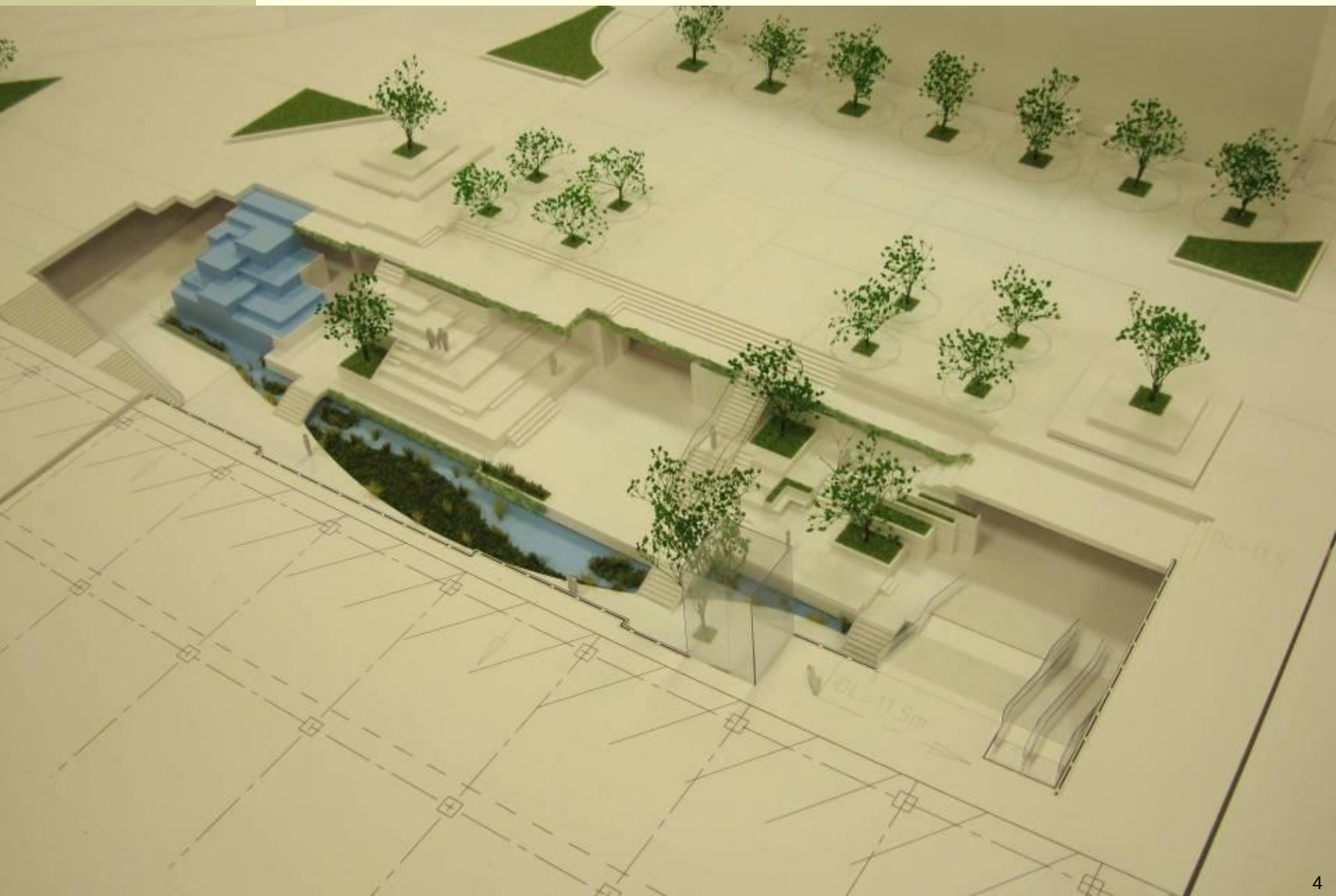


サンクンガーデン周辺に高層建物がある事例

■新宿三井ビル/5 5広場（東京都新宿区）



サンクンガーデンにおける「水と緑」「生態系」に対する専門家の意見



地域の先生方からのご意見

『蛍』について

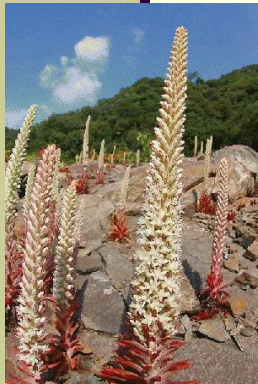
- 繁殖させるためには、流水、カワニナ、落葉樹が必要
- エサとなるカワニナは清水では育たない
- 活動する19～24時に駅前を真暗にすること
- 駅前で繁殖させることは無理、親蛍を放すことは可能
⇒東京・椿山荘「生き物を消費している」との批判

『とんぼ』について

- 羽のある昆虫が生息し続けることはない
- 回遊する仕組みを整備しても、住み良い場所へ行ってしまう

『樹木』について→自然豊かな環境とした場合

- 不快昆虫(ムカデ、ハチ)の苦情が心配
- 高木植樹では、ムクドリが心配
- 日照を考慮した樹木の選定が重要
すすきや目薬の木などの生育は困難



ツメレンゲ

と クロツバメシジミ蝶



ウmanosズクサ
と ジャコウアゲハ

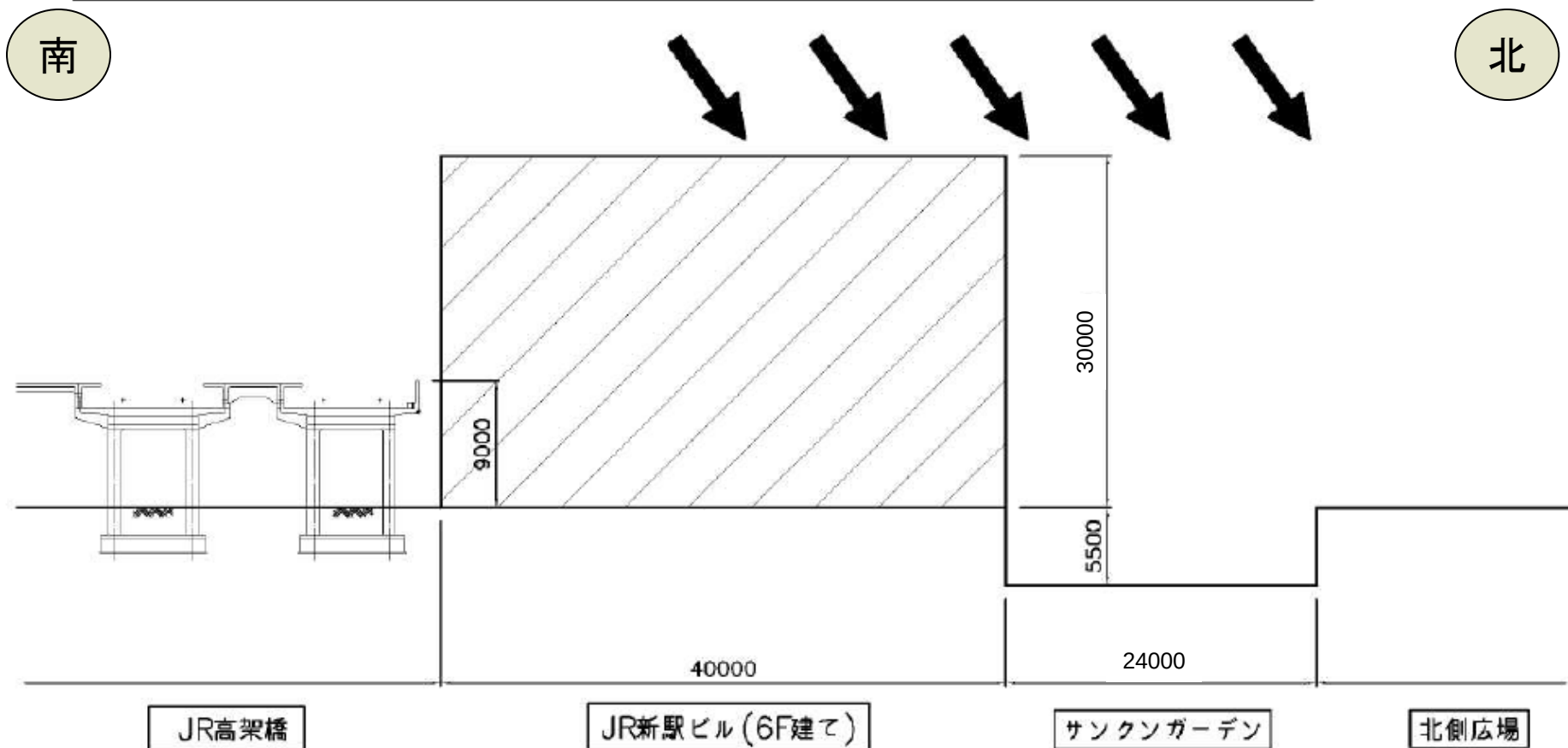
先生方からの提案

- 姫路らしい昆虫、生物を市民や観光客に紹介する拠点に
 - ・大阪や神戸と違い、駅から近いお城周辺には、姫路固有の本物の自然がある
 - ・サンクンガーデンを自然のショーケースと位置づけ、モデル的な自然を紹介
 - ・市民や観光客への情報発信 ・自然豊かな合併町との連携
- 長期計画、面で考える
 - ・ジャコウアゲハ、クロツバメシジミを飛ばすことは可能(ウmanosズクサ、ツメレンゲ)
- 姫路固有の自然を守り、姫路の価値を高める
 - ・自然保護に関する意識向上
 - ・姫路固有の遺伝子を育て、増やし、姫路らしい価値を創造
- コーディネーター
 - ・生物の研究者の意見を取り入れたハード整備と維持管理が必要

日影の検証

○春分 ○夏至 ○秋分 ○冬至

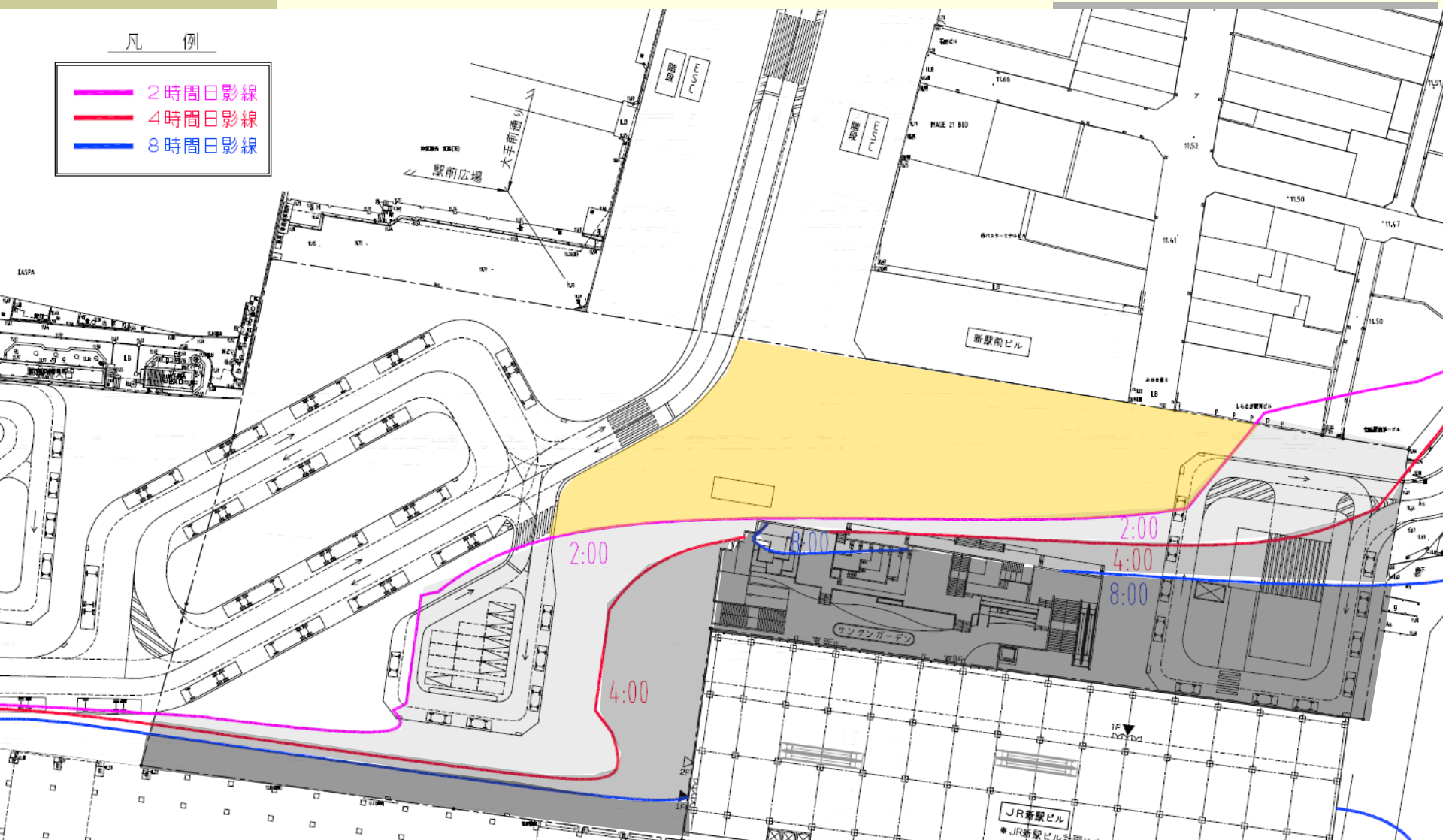
	高さ（深さ）	南北方向の幅
J R 高架	9m（高欄天端）	—
新駅ビル	想定 30m（6F建て）	40m
サンクンガーデン	5.5m	24m



春分(3/21)

■測定時刻 6:30~17:30 (日の出6:04 日の入り18:14)

■8時間以上の日影エリア

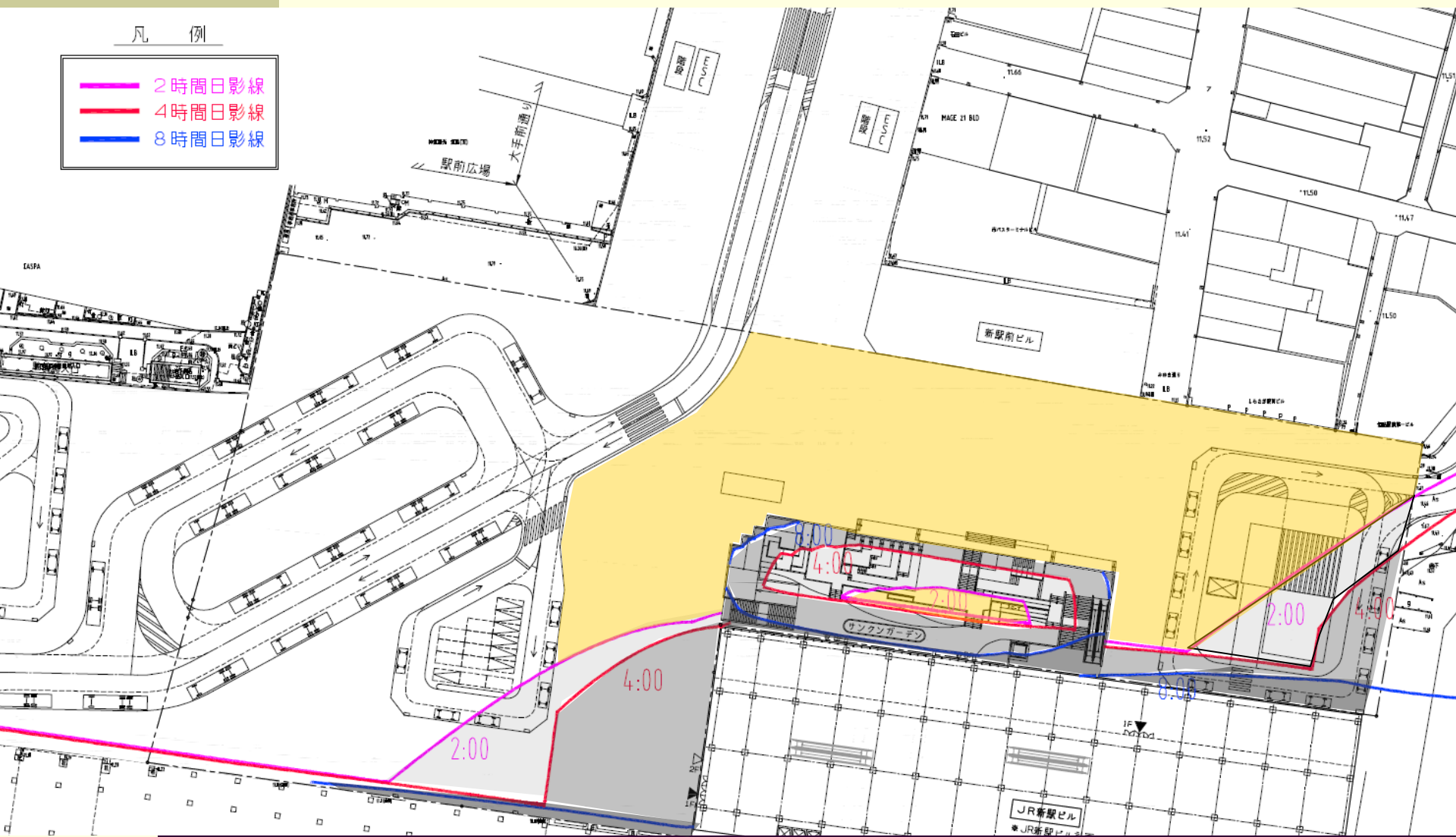


夏至(6/22)

■測定時刻 5:00~19:00

(日の出4:48 日の入り19:18)

■8時間以上の日影エリア



秋分(9/23)

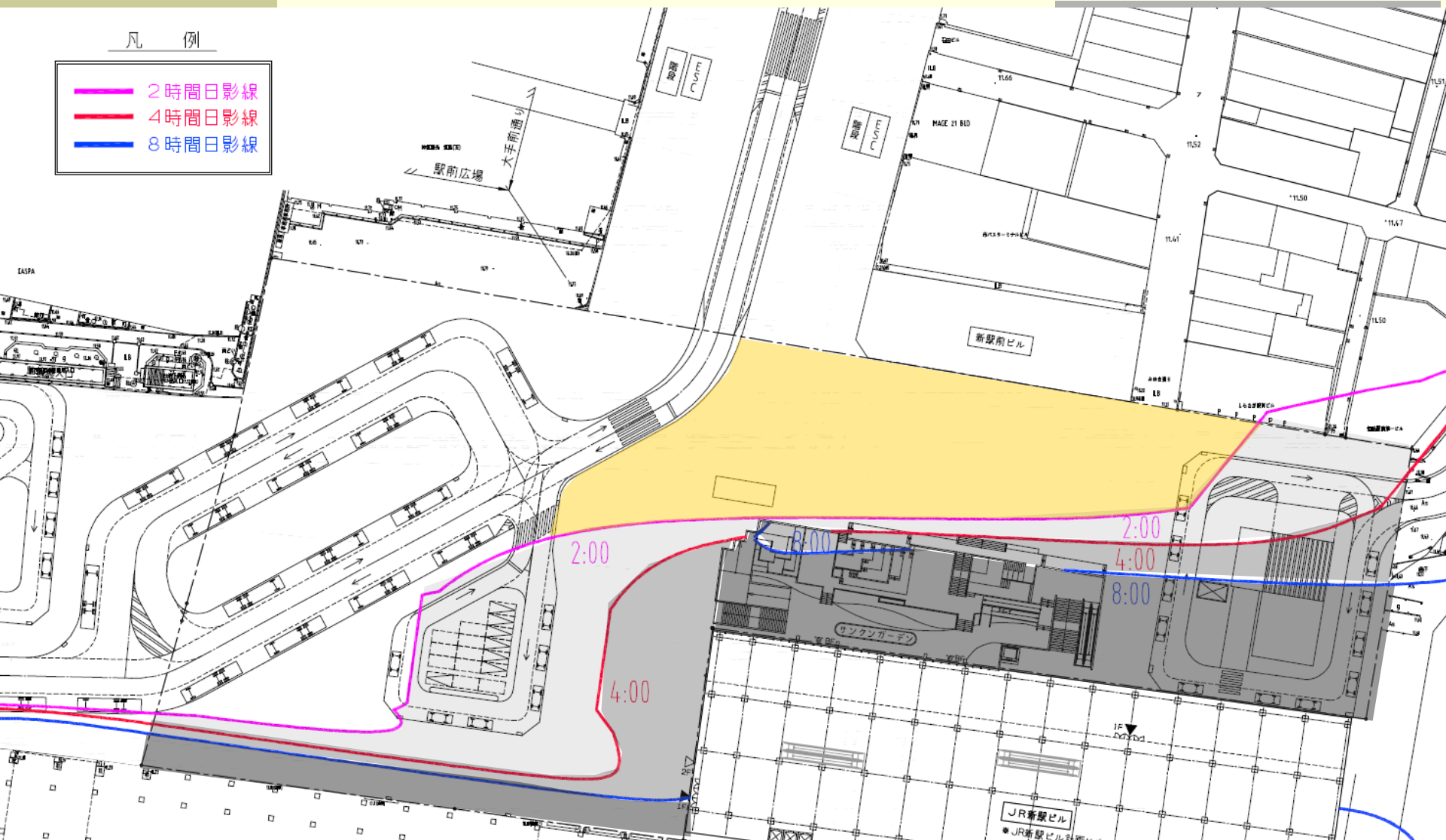
■測定時刻 6:30~17:30

(日の出5:49 日の入り17:58)

■8時間以上の日影エリア

凡 例

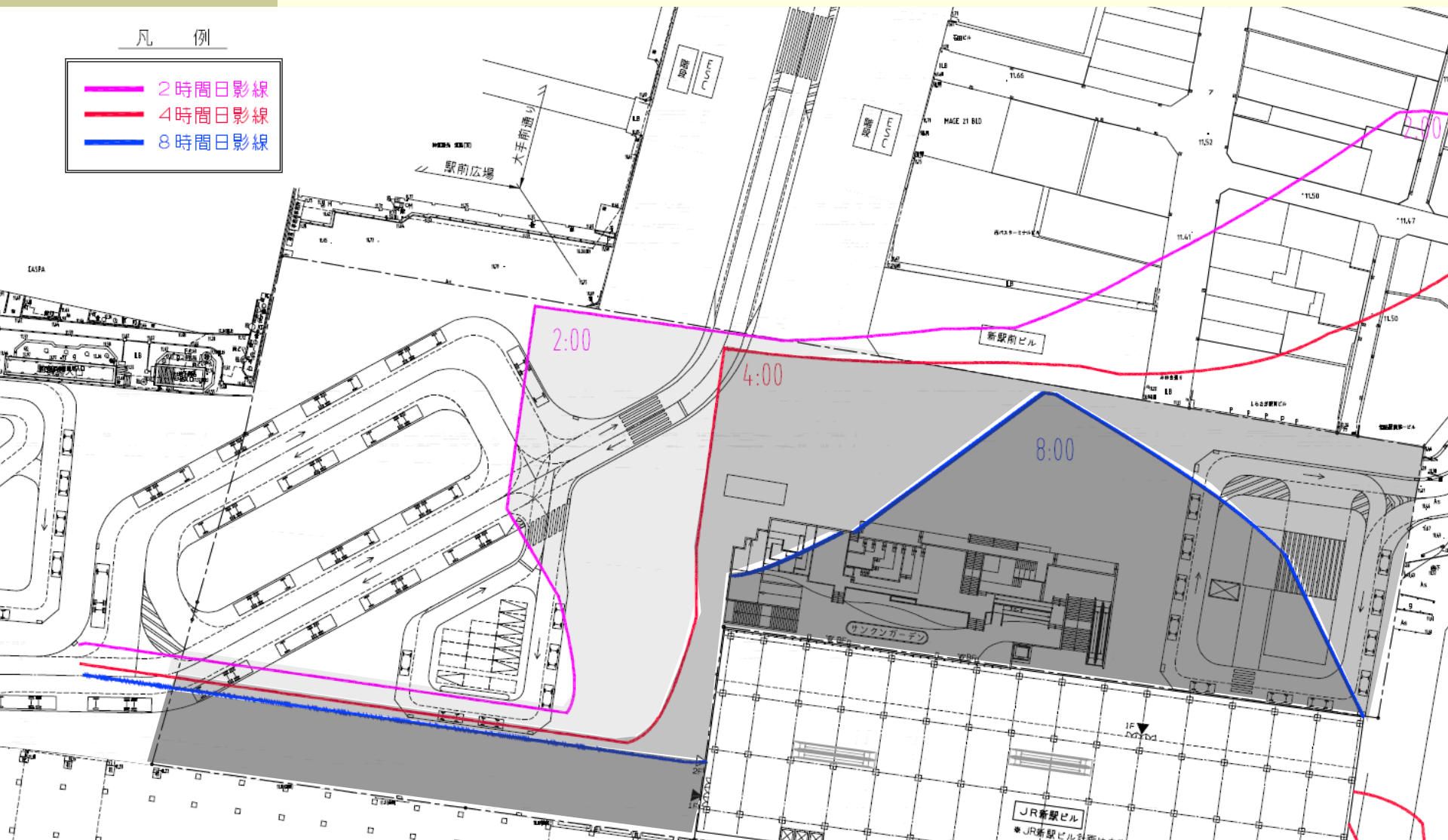
- 2時間日影線
- 4時間日影線
- 8時間日影線



冬至(12/22)

■測定時刻 8:00~16:00 (日の出7:05 日の入り16:55)

■8時間以上の日影エリア

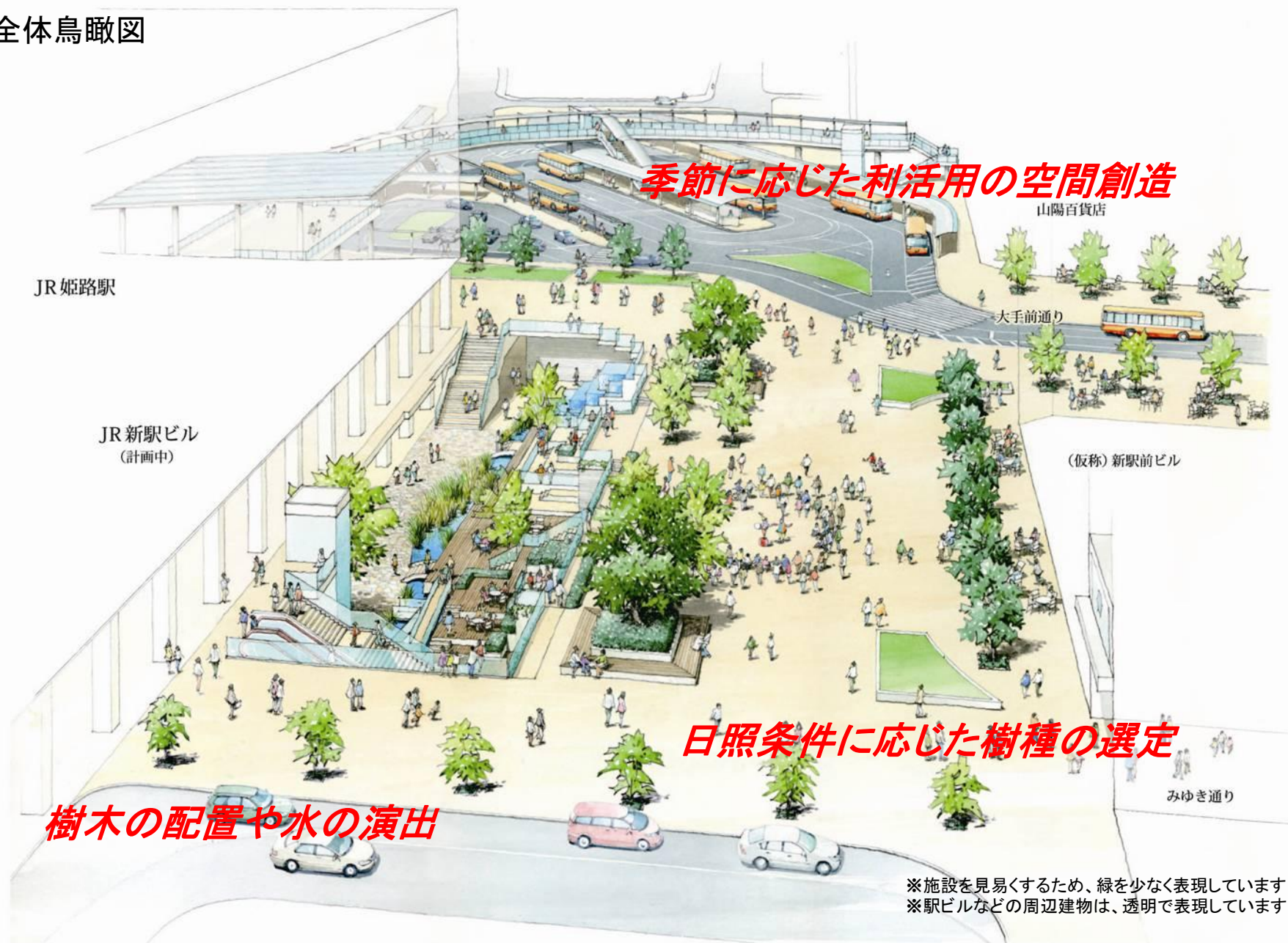


◆まとめ (新駅ビル等による日影の検証)

- 暖かくなっていく春先から暑さが残る秋口まで
新駅ビルによりサンクンガーデンでは
直射日光が適度に遮られる
- 夏至の前後では
昼間の直射日光は新駅ビルでは遮れない
- 冬至の前後については
サンクンガーデンの大部分やJR高架付近では
一日中、日が当たらない

◆サンクンガーデンの環境条件から

全体鳥瞰図



終わり